

---

# 時の音色よ、天へと届け

さくら子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

時の音色よ、天へと届け

### 【Nコード】

N0055F

### 【作者名】

さくら子

### 【あらすじ】

千年前の都、京都。今も昔も変わらず、妖が跳梁跋扈するこの京の地に、不穏な影が立ちのぼる……。少年陰陽師の千年後の未来。今新しい主が彼らの前に現る……。

## 1 始まりを告げる音を聴け（前書き）

この小説は、少年陰陽師の世界に沿って書かれている物語。  
主人公は安倍の血を引く平成の子。いわゆる未来夢です。

……この時点で嫌気のさした方。お戻り下さいませ。

また、オリジナルを含みますが、ほぼ原作沿いに話を進めていく予定ですので、原作を知らない方は理解がしにくいかと思われます。  
予めご了承下さいませ。

## 1 始まりを告げる音を聴け

お前たちが…次代の主を乞うならば…

千年…待ってみろ…

それが…俺からの最後の命令だ…

その命を心に刻んでから幾星霜。

光陰の矢の如く、京の都の時は流れていった。

《時が流れば京の色合いも移ろうものよ、なあ神将》

《ああ…、そうだな…》

時代は変わる。

過去を消し去ってしまうように、今の人々は新しいものを好む。

故に、彼らが最後に人と過ごした景色と、全く違うものが彼らの瞳に映っていた。

《千年で、こんなに変わるものなのだな…人の世は》

《我らにとってはほんの一瞬。だが人間にとっては恐ろしく長い。人の考えは時と共に変わる。これだけの時間があれば、こんなものなど造作もない》

彼らにとってはほんの僅かでしかない時を、人は儚い命を幾多も輝かせる。

その燭は強く、大きく、しかし脆く、儚い。

彼ら、神という半永久的な存在から視れば、瞬き一つの生命は小さな欠片にしか映らないだろう。

しかし。

《お前らの主は…その我ら神の視点を覆した。まったく、人とはよくいったものよ》

感嘆の声に、皆無言で肯定を示す。そして、過去へ思いを馳せるように夕暮れの空を仰いだ。

《彼奴は哀しみに浸るだろう私たちに、生きる導を与えた……。我らはまだ、彼奴のその最後の命をやり遂げていない…》

時の音を聴いてごらん。きっと、お前たちを導いてくれるよ

……

《なあ、昌浩よ…》

我らは、その音色を…聴くことが出来るのだろうか……

さああと風が凪ぎ、木々を揺らす。

ふいに、船岩に座した神がついと目を細めた。

《……………人が来るな……………》

《高露神……………？いかなされた》

陰帯びた呟きに、うつつへと引き戻された四対の影が怪訝そうに神を窺う。

暫くの沈黙の後、神は目許を和ませた。

《ほう……………。これは珍しい》

《……………？》

《なに、近所の子供だ。……………こここのところからの悪い戯け共が彷徨っているからな、皆足を踏み入れないのさ》

がんぜない子供達が戯れるを見るのは、微笑ましいものよ。

くつくつと笑う神に、四対の瞳が睜られた。

やっと、この気まぐれな神の意図が読めた気がする。  
斜に構えた影が厳かに問うた。

《……………まさか、そのからの悪い戯け共をなんとかしろとか、俺らに言うんじゃないだろうな》

低い問いに、神は楽し気に口端をつり上げた。

《勿論、そのつもりだが。……………なんだ、その湿気た顔は》

《……………》

直々のお呼びなど珍しいと思いきや、こつこつ訳か。

《たまには人界に降りるのも良いだろう？そう怖い顔をするな。  
ほら、人が来たぞ》

神の示す先から、笑い声が響く。

四対の影は不満たらたらに神を一瞥した後、空気に溶けるように見えなくなった。

止まっていた彼らの歯車が、時を越えて、ゆっくりと動き出した瞬間だった。

## 1 始まりを告げる音を聴け（後書き）

連載開始…！

今回は絶対に途中で折れません。…きっと。

文章能力が劣るため、頭がついてこないんです。

更新遅めですが、気長にお願いいたします。

\* 高露神と書かれています。 “ 露 ” の部分は本来の漢字が私のパソコンで出てこなかったため、この表記となっています。読み方は “ たかおかみの神 ” です。申し訳ありません（T T）。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0055f/>

---

時の音色よ、天へと届け

2010年10月11日22時35分発行